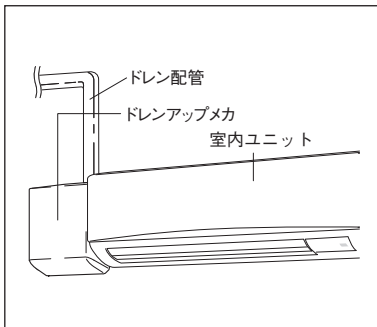


ドレンアップメカ

● PAC-SK01DM

使用目的 / 用途



- “ドレンアップメカ” は、ドレン配管の横引き距離が長く、ドレン勾配が取れない場合に使用する部品です。
- 本品は室内ユニット左側の壁面の取り付けとなります。
(ユニット外付けタイプ)
- 850mm (本体下端より) のドレンアップが可能となり、配管工事の自由度が上がります。

注 意

- ・ 排水側は下り勾配 (1/100 以上) としてください。
- ・ 本品から外部に至るその間で、ドレン配管は全て断熱を施してください。
- ・ PAC-SH75DM/PAC-SH94DM と本製品との互換性はありません。

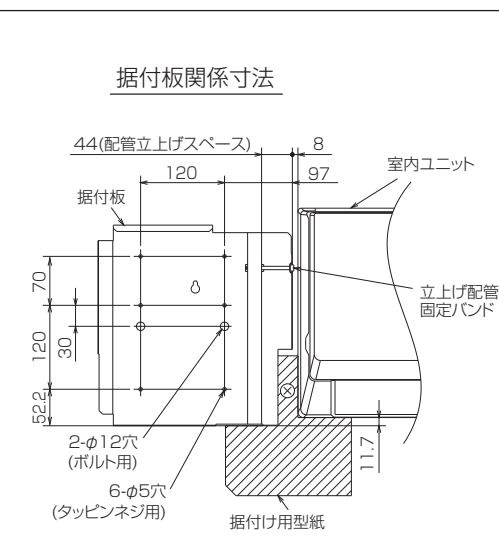
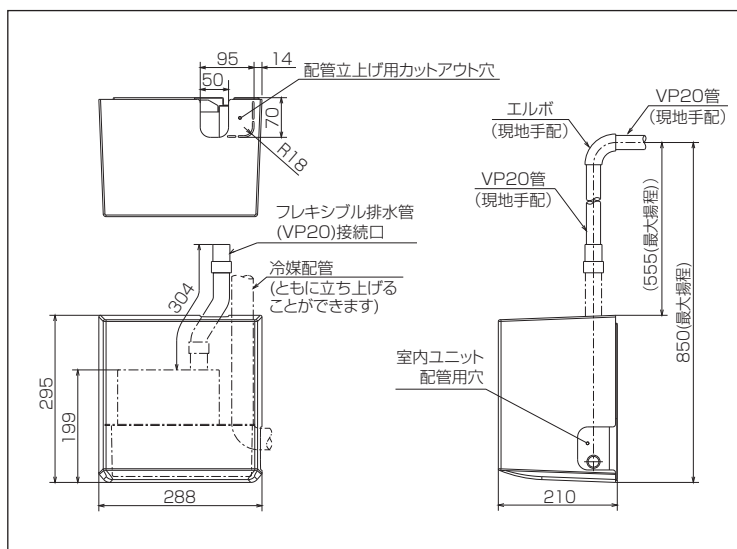
対象ユニット

- PK-RP40 ~ 50LA

仕 様

形 名	PAC-SK01DM	外装	材質	カバー：PS 樹脂
定格電源	AC200V 50/60Hz	色 (マシ No.)		アイスホワイト <0.7PB 9.2/0.4>
消費電力	3.9W	運転使用温度範囲		室内ユニットの運転使用温度範囲に同じ
運転電流	0.05A	駆動用モーター		DC ブラシレス (E 種絶縁)
ドレン揚程	ドレンアップメカ下面より最大 850mm	ドレン配管		ドレン排出口へ接続 PVC 管 VP-20 (外径φ 26) 対応
吐出水量	24L/h 以上	付属品		ドレンホース (本体・室内ユニット接続用) 1 本 フレキシブル排水管カバー 1 本・バンド 2 本 (排水管用固定用、配管用固定用各 1 本) 据付用型紙 1 枚・取付ネジ 7 本
外形寸法	H295 × W288 × D210mm			

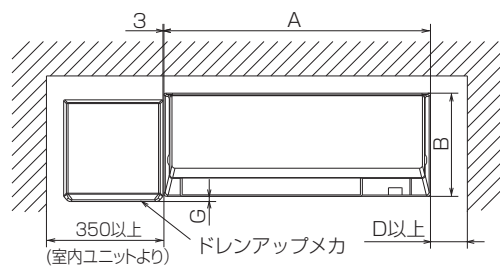
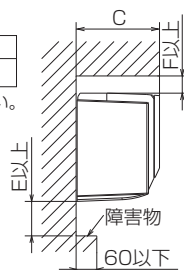
外形図 (単位：mm)



据付・サービススペース

	A	B	C	D	E	F※	G
40~50LA形	773/898	299	237	150	250	75	15

※ 天井に廻り縁がある場合はその寸法を考慮して据付けてください。





三菱電機パッケージエアコン別売部品 ドレンアップメカ据付工事説明書
 形名 PAC-SK01DM [壁掛形 PK-L形]

- 安全のため必ず守ること
- ① 安全のため必ず守ること。たとえばお湯のうすい程度に行ってください。
② この指示は強制事項は、安全に関する重大な事項に関する指示です。必ず守ってください。
③ 肺がん検査のために生じる放射線とその程度を、次の表で分けて示してあります。
- ※ 検査前と検査中にこの工場の放射線工場の放射線量をよく把握してください。
- ④ このシニアプランは、検査中に右側の画面に指示に従って使用してください。
⑤ シニアプランの指示により、シンチゲートの閉鎖状態を維持する必要があります。
⑥ シニアプランの指示に従って、シンチゲートの閉鎖状態を維持してください。
⑦ 検査前と検査中にこの工場の放射線工場の放射線量をよく把握してください。

Figure 1

- ※ 取付けは、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
 ・ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
 ・誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

注意

注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。








警告

- 改造は、便利にしない。
 - 修繕は、お直しだけの範囲にとどめおくこと。
 - 改造成った修理で働かなくてはならない燃焼・火災の原因になります。
- お客自身で前付工事をされたり不備があるとき水漏れや感電・火災の原因になります。**
- 前付けは、販売店または専門業者に依頼する。
 - 前付工事とは、前付工事は専門に行う。
 - 前付けに不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
 - 前付けは、質問十分に答えたと満足して行う。
 - 前付け不足は、質問に答えたと満足して行う。事故の原因になります。

警告

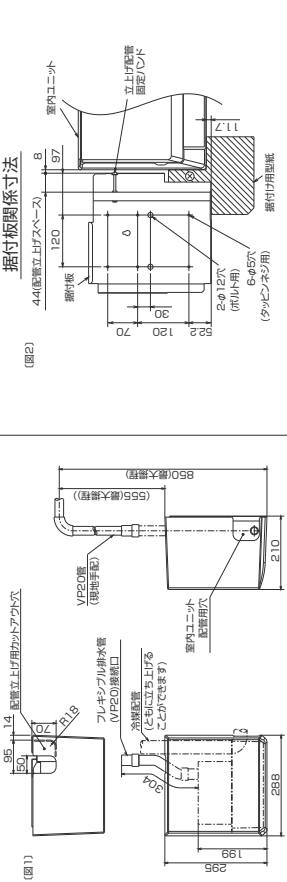
- 劣化部材の取換は、必ずしも必要ではありません。
- 不完全な防水施工を行うと、壁面など壁筋が結露して、腐たりなどを発生し、天井・床などに水がしみこみ、壁筋の劣化や、気密性低下につながります。
- 換気扇の取換施工は、気密性を確保していただくさい。
- トイレ配管は、据付工で配管が明露に近づくと排水による腐食・結露が生じ、また、下水管に不備があると、水漏れし、天井・床その他部材などを濡らす原因になります。
- 配管・配線に不備があると、水漏れし、天井・床その他部材などを濡らす原因になります。
- 窓のユニットは必ず水平に据付けねばなりません。
- 水漏れを起し、壁面などを汚す原因になります。

1. 付属部品のご確認(下記部品が付属されておりますので、据付け前にご確認ください)

① ドレンアップバック	② タップネジ	③ タップネジ	④ ドレンホース	⑤ プロキアルホース継ぎ	⑥ バンド	⑦ 組み付け用紙皿
						
×1	(4×3B)×6	(4×1.6)×1	×1	×1	×2	×1

※②～⑥はドレンアップメカの化粧カバーと本体の間に同梱されています。化粧カバーを取外してから取出してください。

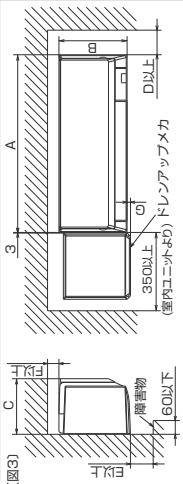
2. 外形寸法、周囲必要空間(単位mm)



ドレンアップメカの周用に必要な空間

	A	B	C	D	E	F※	G
PK-L形	773/898	299	237	150	250	75	15

※天井に廻り縁がある場合はその寸法を考慮して据付けてください。

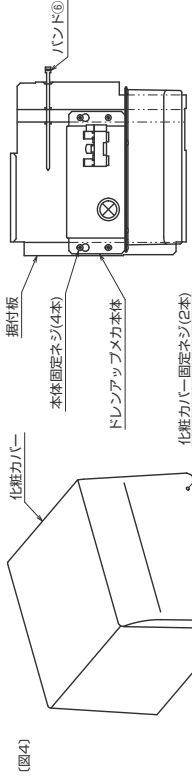


(本マニュアル用に変更・修正しています)

3. ドレンアップメカを据付ける前に(※始めに室内ユニット位置決めを行ってください)

3-1 ドル・アップ・メカの準備

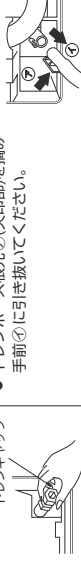
- ※ 付属品を取り出してください。



3-2 室内ユニットの準備、据付け(※室内ユニット据付工事説明書の配管接続準備の項目を参照してください)

- 1) 室内ユニット左側面の左配管用カットアウト穴を開けます。

- (図5-1)
- ② 左側排水口のドレンキャップを抜く。
- ドレンホース根元^㉞(矢印部)を掴み手前^㉟に引き抜いてください。
- ③ 室内ユニットのドレンホースを取り出す。
- 先端の凸部分をつまんで抜きとって
A / A /
- ドレンキャップ
- ドレンホース根元^㉞(矢印部)を掴み手前^㉟に引き抜いてください。
- (図5-2)

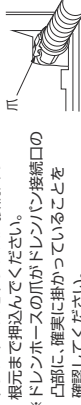


- (図5-3)

(5) 右側排水口にドレンキャップを差込む。
 ● 先端穴にドラライバーなどを差込み、ドレンキャップ根元までドレンキャップを挿入し、確実に押込んでください。

(図5-4)

(5) 左側排水口に付属のドレンホース④を差込む。
 ● ドレンホースをドレンポンプ接続口の根元まで挿込んでください。
 ※ ドレンホースの爪がドレンポンプ接続口の凸部に、確実に掛かっていることを確認してください。



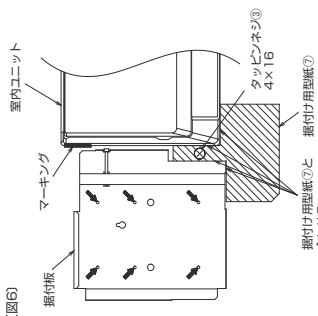
注意

- 6) 室内ユニットを据付けます。

4. ドレンアップメカの据付け

4-1 据付板の固定

- 据付け場所とは十分検討し、強度上危険と思われる場合は桁などを補強して据付け作業を行ってください。
 - ① 付属の据付け用型紙⑦を利用して、据付け板の位置を決めます。
 - (※ 室内ユニット左端の位置をあらかじりマークキングしておいてください)
 - 1) 右図のように室内ユニットの左端に合わせて、据付け用型紙⑦をあてがいながら、台座のタッピンネジ③④(4×16)で据付け用型紙⑦を壁に固定してください。
 - 2) 固定した据付け用型紙⑦に合わせて、据付け板の取付け位置を決定してください。
 - ② タッピンネジ②(4×4×35)を使用し、据付け板の5穴①に固定してください。
 - (右図中の矢印、6ヶ所)
- 据付け板を固定板②(通しボルト、ボルトアンカー、ナットアンカー)にて固定する場合はM10またはW3/8ネジを現場手配して、据付け板のφ12穴に固定してください。(2ヶ所)
- ③ 据付け板の固定が終了しましたら、据付け用型紙⑦は取外してください。
- ④ 据付け板の水平および室内ユニットとの位置関係を確認してください。(図2参照)



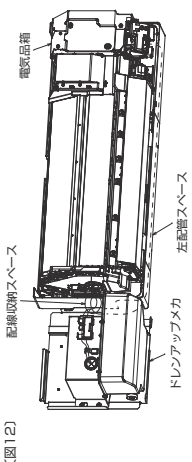
7. 電気配線工事

7-1 室内ユニットの準備 ※電源がOFFであることを確認してから作業してください

- 室内ユニットのパネル、電気品箱のカバーを取外します。(※室内ユニット据付工事説明書の室内ユニット設置の項目を参照してください)

7-2 配線取廻し

- 配線は右図のように室内ユニットの左配管スペースと、おし、電気品箱まで取回してください。
- リード線を室内ユニットの制御基板コネクタに接続後、リード線のあまりをドレンアップメカ内の配線収納スペースに収納してください。(クランプ固定)

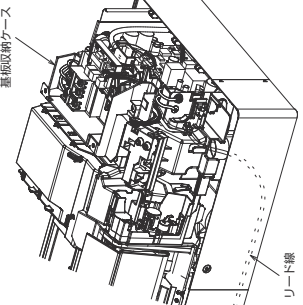


7-3 配線工事

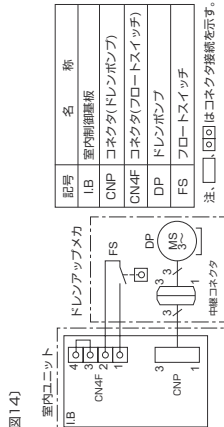
- 接続コネクタ付のリード線は制御基板のコネクタ“CNP”CN4Fにそれぞれ接続します。このとき、制御基板のCN4F端子には短絡コネクタ(不要)になります。取り付けられていますので、これを取外してください。
- 制御基板上に発熱体(ヒートシンク)がありますので、リード線が触れないように注意してください。

配線の取廻し(電気品箱付近)

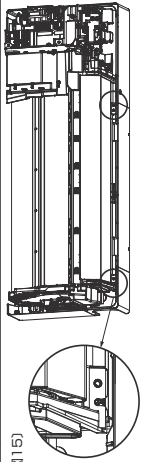
(図13)



電気配線図



- 配線工事が終了しましたら、爪が外れていないことを確認した後、室内ユニットの電気品箱のカバー、パネルをもとどおりに取付けてください。



8. 試 運 転

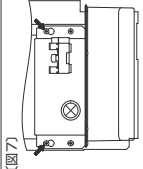
- ★ ドレンアップメカの据付け完了後、試運転により排水が確実に行われていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。
- (1) 注水
室内ユニットのドレン(パン)に約800cc注水してください。(※室内ユニット据付工事説明書のドレン配管(排水)の確認の項目を参照してください)
(※注入する水量が多過ぎるとドレンオーバーフロー保護動作による異常停止により排水できない場合があります)
- (2) 試運転
室内ユニット据付工事説明書の試運転の項目に従って、冷房運転を行い排水、並びに漏水のないことを確認してください。
※暖房シーズン中にドレンアップメカを据付けた場合、ドレン抜きを行ってください。
ドレン抜きは、本体側面ドレンプラグを取外せば行えます。このときドレンの受皿をご用意ください。
ドレン抜きが完了しましたらドレンプラグをもとどおりにはめ込んでください。
(3) 確認後、化粧カバーをもとどおりに取付けてください。
※4-1で付けたマーキング位置と室内ユニットの左側部が合致しているか確認してください。
(化粧カバーが取付かない、もしくは化粧カバーと室内ユニットとの間に隙間が生じます)

4-2 ドレンアップメカ本体の取付け

- ドレンアップメカ本体を据付板に固定します。
(1) 据付板の本体取付け用穴の内、上側の2ヶ所(図7の矢印)に取付けネジを約半分まで仮締めし、本体をネジに引っ掛け仮固定します。
(2) 水準器を使用して本体の水平を確認した後、4ヶ所ともネジを本締めして本体を固定します。

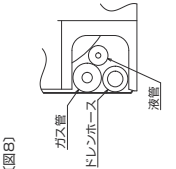
注意

- 水漏れなどを起こし、壁面などを汚す原因となります。



5. 冷媒配管工事 ※室内ユニット据付工事説明書の冷媒配管接続の項目を参照してください

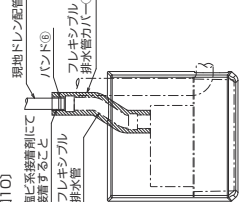
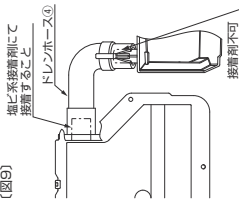
- 冷媒配管とドレン配管をまとめて立ち上げる場合
(1) 左配管の工事要領で配管工事を行ってください。
- (2) 据付板の配管立上げスペース内(図2)に収まるように施工してください。
- 配管工事時、室内ユニットが4-1(図6)でマーキングした位置からずれないようにしてください。
- 冷媒配管の曲がり半径はR80以下に施工してください。
- (曲がり半径R80より大きい場合、化粧カバーが配管と干渉し取付けできません)
- 立上げる配管は据付板の角穴に差し込み(バンド⑧(図4))で固定してください。
- (3) 冷媒配管を室内ユニットの左配管スペースに図8のように配置、まとめてください。



6. ドレン配管工事

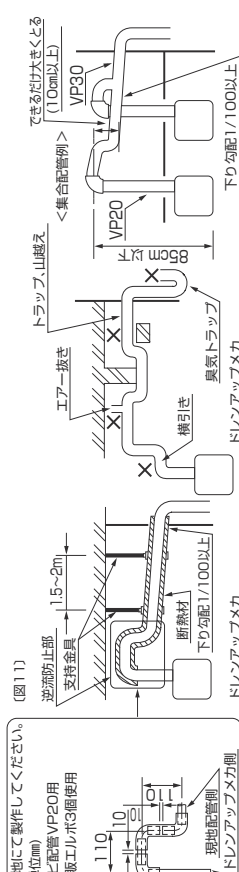
6-1 ドレンホースの接続

- (1) ドレンアップメカ本体のドレン接続口に室内ユニット左側の排水口に取付けたドレンホース④を接続します。接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。(図9)
- (2) 現地ドレン配管とドレンアップメカ本体天面のフレキシブル排水管を接続してください。接続部は必ず塩ビ系接着剤を使用し、付属のバンド⑥で固定して水漏れのないように施工してください。(図10)
- (3) 付属のフレキシブル排水管カバー⑤を使用して、ドレンアップメカ天面のフレキシブル排水管を断熱してください。(図10)



6-2 ドレン配管工事

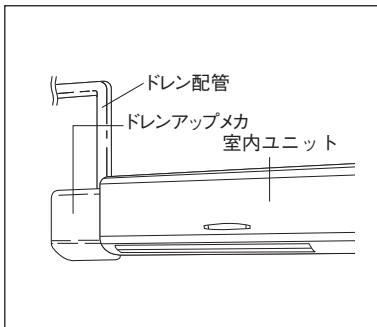
- (1) ドレン配管工事は以下の項目に従って作業してください。
- ドレン配管は室外側(排水側)が下り勾配(1/100以上)となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管の横引き長さは20m以下にしてください。また、途中に支持金具を設けてドレンアップメカ配管の横元に過度の荷重が加わらないようにするとともにドレン配管の波打ちをなくしてください。エア抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出します。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプVP20(外形φ26)を使用し、接続部は必ず塩ビ系接着剤にて水漏れのないように施工してください。
- ドレン配管には必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン: 比重0.03、肉厚10mm以上)を巻いて断熱してください。
- ドレン配管の排水出口部に臭気トラップを設けないでください。
- ドレン配管の排水出口部には臭気の発生をおそれない場所に施工してください。
- 集合配管の場合下図のように本体のドレン出口部より約10cm程度低い位置に集合配管(幹排水管)がくるようにし、かつ集合配管はVP30程度のもので下り勾配(1/100以上)となるよう施工してください。
- ドレン配管の出口高さ(ポンプ機種)はドレンアップメカ下面より85cmですが、立上げ管の途中に横引き管がある場合、運転停止時にあけるドレンの逆流量が多くドレンパンからオーバーフローしますので、ドレン配管は必ずまっすぐ、垂直に立上げてください。また、最高部に下図のような逆流防止部を設け、横引き配管からの逆流を防いでください。



ドレンアップメカ

● PAC-SK19DM

使用目的 / 用途



- “ドレンアップメカ” は、ドレン配管の横引き距離が長く、ドレン勾配が取れない場合に使用する部品です。
- 本品は室内ユニット左側の壁面の取り付けとなります。
(ユニット外付けタイプ)
- 850mm (本体下端より) のドレンアップが可能となり、配管工事の自由度が上がります。

注 意

- ・ 排水側は下り勾配 (1/100 以上) としてください。
- ・ 本品から外部に至るその間で、ドレン配管は全て断熱を施してください。
- ・ PAC-SH75DM/PAC-SH94DM と本製品との互換性はありません。

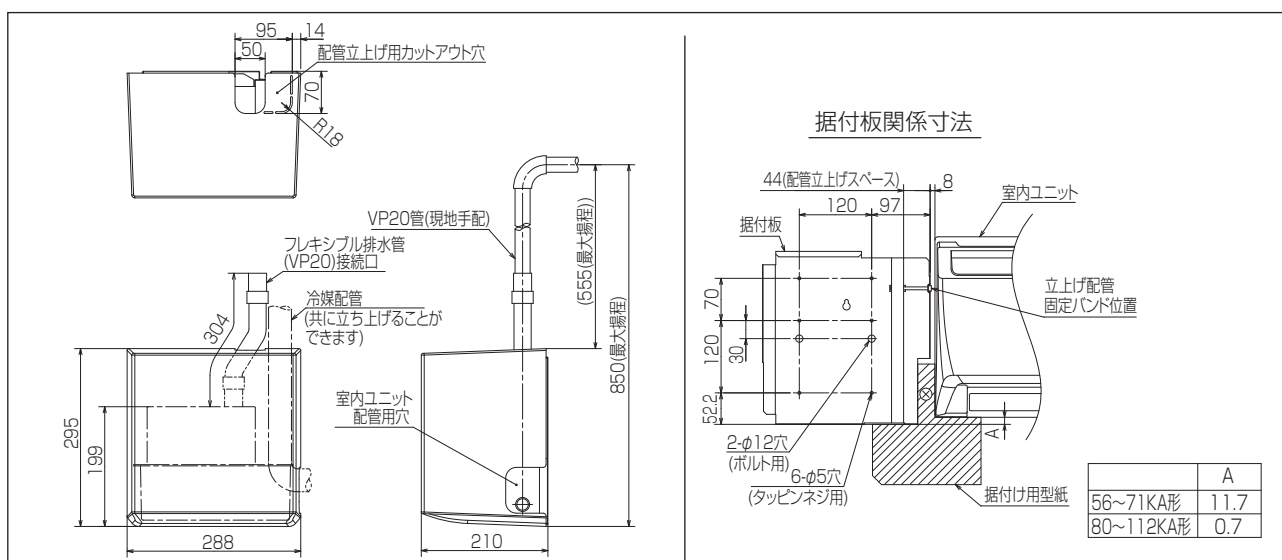
対象ユニット

- PK-RP56 ~ 112KA17

仕 様

形 名	PAC-SK19DM	外装	材質	カバー：PS 樹脂
定格電源	AC200V 50/60Hz	色 (マール No.)		クリアホワイト <1.0Y 9.2/0.2>
消費電力	3.9W	運転使用温度範囲		室内ユニットの運転使用温度範囲に同じ
運転電流	0.05A	駆動用モーター		DC ブラシレス (E 種絶縁)
ドレン揚程	ドレンアップメカ下面より最大 850mm	ドレン配管		ドレン排出口へ接続 PVC 管 VP-20 (外径φ 26) 対応
吐出水量	24L/h 以上	付属品		ドレンホース (本体・室内ユニット接続用) 1 本 フレキシブル排水管カバー 1 本・バンド 2 本 (排水管固定用、配管固定用各 1 本) 据付用型紙 3 枚・取付ネジ 7 本
外形寸法	H295 × W288 × D210mm			

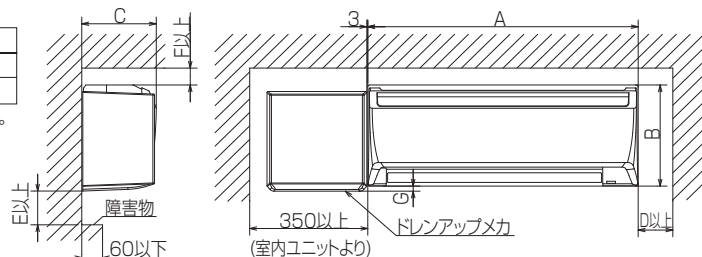
外形図 (単位：mm)



据付・サービススペース

	A	B	C	D	E	F*	G
56~71KA形	1100	325	263	27	250	100	15
80~112KA形	1170	365	300	100.5	250	108	4

※天井に廻り縁がある場合は、その寸法を考慮して据付けてください。





三菱電機パッケージエアコン別売部品 ドレンアップメカ据付工事説明書

形名 PAC-SK19DM 【壁掛け PK-RP・KA15タイプ以降】

●このドレンアップメカは、室内ユニット左側の後面に据付けて使用します。
●ドレンアップメカ据付けには、ドレンパイプ、冷媒配管ともに上からの取出しが必要です。
●ドレンアップメカの据付けは、室内ユニットの据付け位置決め後にしてください。
※据付け前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。

安全のために必ず守ること

・据付けは、この安全のために必ず守ることによりお読みの上、確実に行ってください。
・ここに示した注意事項は、安全に備える重大な注意を記述していますので必ず守ってください。
・誤った取扱いをしたときに生じる危険とその回避方法を、次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取扱いをしたときに、死にや重傷などにつながる可能性があるもの。

注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家具、素材などの損傷に結びつくもの。

・据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に安全のために必ず守ることや使用方法、お手入れの仕方などを説明し、本書をお渡ください。
・この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管していただくように依頼してください。
・また、お取扱いになる方が代わる場合は、新しいお取扱いの要領をいただくように依頼してください。

警告

- 改修は、絶対に行ない。
- 修理は、お買い上げの販売店にて相談ください。
- 改修した修理には保証がなくなり、お客様で保管していただくように依頼してください。
- 据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
- お客様自身で据付工事を行なうと、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 据付工事とは、この据付工事説明書に従って確実に行ってください。
- 据付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 列数が不足している場合は、ユニットの落下などにより、事故の原因になります。

注意

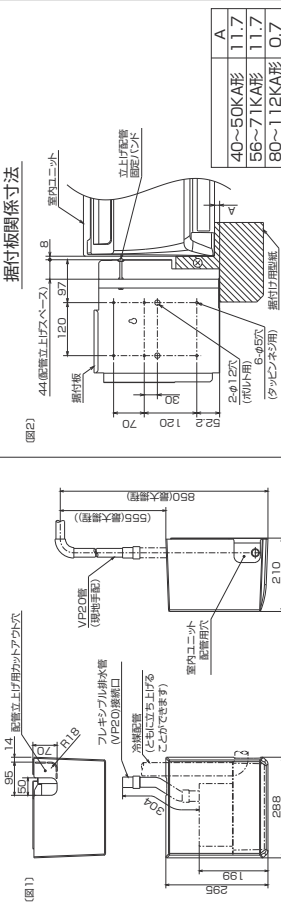
- 冷媒配管の断熱は確実に施すように確実に行う。
- 不完全な断熱施工を行うと配管など周囲が凝露して、濡れなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
- 接続部の断熱施工は、気密は厳格に行ってください。
- ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、経路が生じないよう事前処理すること。
- 配管工事に不備があると、水漏れ、天井・床その他が濡れる原因になります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付けすること。
- 水漏れを起こし、壁面などを汚す原因になります。

1. 付属部品のご確認(下記部品が付属されており、据付け前にご確認ください)

① ドレンアップメカ	② タップネジ	③ タップネジ	④ ドレンホース	⑤ フレキシブル排水管	⑥ ハンド	⑦ 据付け用型紙
1個	1個	1個	1個	1個	1個	1枚
1個	1個	1個	1個	1個	1個	1枚

※ ②～⑥はドレンアップメカの化粧カバーと本体の間に同梱されています。化粧カバーを外してから取り出してください。

2. 外形寸法、周囲必要空間(単位:mm)



ドレンアップメカの周囲に必要な空間

	A	B	C	D	E	F	G
40～50KA形	780	280	215	20	250	935	15
56～71KA形	1100	325	263	27	250	108	4
80～112KA形	1170	365	300	1005	250	108	15

※ 天井に通り筋がある場合は、その寸法を考慮して据付けてください。

取付説明書

ドレンアップメカ:PAC-SK19DM

(本マニュアル用に変更・修正しています)

3. ドレンアップメカを据付ける前に(※始めに室内ユニット位置決めを行ってください)

3-1 ドレンアップメカの準備

- 化粧カバーとドレンアップメカ本体の背面に固定されている据付け板を、それぞれ取り外してください。
※ 付属品を取り出してください。
- 冷媒配管を立ち上げる場合は、据付け板の角のバンド⑧を通してください。
また、化粧カバー一面のカットアウト穴をニッパーなどで切り取ってください。

3-2 室内ユニットの準備、据付け(※室内ユニット据付工事説明書の配管接続準備の項目を参照してください)

※ 取外したネジは使用します。紛失しないようにしてください。

(1) 室内ユニット左側の左配管用カットアウト穴を開けます。

(2) 左側排水口のドレンキャップを抜く。

● ドレンホース挿入口(矢印部)を掴み、手前④に引き抜いてください。

(3) 室内ユニットのドレンホースを取り外す。

● ドレンホース挿入口(矢印部)を掴み、手前④に引き抜いてください。

(4) 右側排水口にドレンキャップを差込む。

● 先端穴にドライバーなどを差込み、ドレンキャップ根元まで確実に挿込んでください。

(5) 左側排水口に付属のドレンホース④を差込む。

● ドレンホースをドレンパイプ接続口の根元まで挿込んでください。
※ ドレンホースの爪がドレンパイプ接続口の凸部に、確実に掛かっていることを確認してください。

(6) 室内ユニットを据付けます。

※ 室内ユニットは必ず水平に据付けすること。
● 水漏れを起こし、壁面などを汚す原因になります。

4. ドレンアップメカの据付け

4-1 据付け板の固定

- 据付け場所は十分検討し、強度、上危険と思われる場合、板あるいは桁などで補強して据付け作業を行ってください。
- 付属の据付け用型紙⑦を利用して、据付け板の位置を決めます。
(※ 室内ユニット左端の位置をあらかじめマーキングしておいてください)
- 1) 右図のように室内ユニットの左端に合わせて、据付け用型紙⑦をあてがいながら、付属のタップネジ③(4×16)で据付け用型紙⑦を壁に固定してください。
- 2) 固定した据付け用型紙⑦に合わせて、据付け板の取付け位置を決定してください。
(右図中の矢印、6ヶ所)
- 据付け板を固定ボルト⑤、ボルトアンカー、ナットアンカーにて固定する場合はM10またはW3/8ネジを現地手配して、据付け板のφ12穴に固定してください。(2ヶ所)
- 3) 据付け板の固定が終了したら、据付け用型紙⑦は取り外してください。(図2参照)
- 4) 据付け板の水平および室内ユニットとの位置関係を確認してください。(図2参照)

4-2 ドレンアップメカ本体の取付け

- ドレンアップメカ本体を据付板に固定します。
 (1) 据付板の本体取付け用穴の内、上側の2ヶ所(図7の矢印)に取付けネジを約半分まで仮締めし、本体をネジに引っ掛け仮固定します。
 (2) 水準器を使用して本体の水平を確認した後、4ヶ所ともネジを本締めして本体を固定します。

注意

ドレンアップメカは必ず水平に据付けます。

● 水漏れなどを起こし、壁面などを汚す原因となります。

5. 冷媒配管工事

※室内ユニット据付工事説明書の冷媒配管接続の項目を参照してください

- 冷媒配管とドレン配管をまとめて立ち上げる場合
 (1) 左配管の工事要領で配管工事を行ってください。
- (2) 据付板の配管立上げスペース内(図2)に収まるように施工してください。
- 配管工事時、室内ユニットがマーキングした位置からずれないようにしてください。
- 冷媒配管の曲げ半径はR80以下にて施工してください。
- (曲げ半径R80より大きい場合、化粧カバーが配管と干渉し取付けできません)
- 立上げる配管は据付板の角穴に通しバンド⑧(図4)で固定してください。
- (3) 冷媒配管を室内ユニットの左配管スペースに図8のように配置、まとめてください。

6. ドレン配管工事

6-1 ドレンホースの接続

- (1) ドレンアップメカ本体のドレン接続口に室内ユニット左側の排水口に取付けたドレンホース④を接続します。接続部は必ず塩ビ接着剤にて水漏れのないように施工してください。(図9)
- (2) 現地ドレン配管とドレンアップメカ本体天面のフレキシブル排水管を接続してください。接続部は必ず塩ビ接着剤を使用し、付属のバンド⑥で固定して水漏れのないように施工してください。(図10)
- (3) 付属のフレキシブル排水管⑤を使用して、ドレンアップメカ天面のフレキシブル排水管を断熱してください。(図10)

6-2 ドレン配管工事

- (1) ドレン配管工事は以下の項目に従って作業してください。
- ドレン配管は室外側(排水側)が下り勾配(1/100以上)となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管の横引き長さは20m以下にしてください。また、途中に支持金具を設けてドレンアップメカ配管の横元に過度の荷重が加わらないようにするとともにドレン配管の波打たないようにしてください。エアークラスは絶対に付けないでください。ドレンが吹出します。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプVP20(外形φ26)を使用し、接続部は必ず塩ビ接着剤にて水漏れのないように施工してください。
- ドレン配管には必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン：比重0.03、肉厚10mm以上)を巻いて断熱してください。
- ドレン配管の排水出口部に臭気トラップを設けないでください。
- ドレン配管の出口部は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
- 集合配管の場合下図のように本体のドレン出口部より約10cm程度低い位置に集合配管(幹排水管)がくるようにし、かつ集合配管はVP30程度のもので下り勾配(1/100以上)となるよう施工してください。
- ドレン配管の出口高さ(ポンプ機能はドレンアップメカ下面より85cmで、立上げ管の途中に横引き管がある場合、運転停止時にあけるドレンの逆流量が多くのドレンパンからオーバーフローしますので、ドレン配管は必ずまっすぐ、垂直に立上げてください。また、最高部に下図のような逆流防止部を設け、横引き配管からの逆流を防いでください。

(単位mm)

塩ビ配管VP20用
市販エリ33使用

110

10

15~20

逆流防止部

支持金具

逆流防止部

トラップ、山越え

エアークラス

85cm

VP20

VP30

できるだけ大きくする

<集合配管例>

100以上

下り勾配1/100以上

臭気トラップ

横引き

ドレンアップメカ

ドレンアップメカ側

現地配管側

図11

取付説明書

ドレンアップメカ:PAC-SK19DM

7. 電気配線工事

7-1 室内ユニットの準備

※電源がOFFであることを確認してから作業してください

- 室内ユニットのバネリ、電気品箱のカバーを外します。(※室内ユニット据付工事説明書の室内ユニット設置の項目を参照してください)

7-2 配線取廻し

(図12)

- 配線は右図のように室内ユニットの左配管スペースとおり、電気品箱まで取回してください。
- リード線を室内ユニットの制御基板コネクタに接続後、リード線のあまりをドレンアップメカ内の配線収納スペースに収納してください。(クランプ固定)

7-3 配線工事

- 制御基板のコネクタCNP"CN4F"とリード線が接続出来る位置まで基板収納ケースを引き出してください。
- 接続コネクタ付のリード線は制御基板のコネクタ"CNP"CN4F"にそれぞれ接続します。
- このとき、制御基板のCN4F端子には短絡コネクタ(不要になります)が装着されていますので、これを外してください。
- 制御基板上に発熱体(ヒートシンク)がありますのでリード線が触れないように注意してください。

電気配線図

(図16)

室内ユニット

IB 室内制御基板

CNP コネクタ(ドレントラストスイッチ)

DP コネクタ(フロートスイッチ)

FS ドレントラストスイッチ

注: □ 回はコネクタ線数を示す。

ドレンアップメカ

IB 4 3 2 1

CNP 3 2 1

FS 3 2 1

DP 3 2 1

MS 3 2 1

中継コネクタ

(図14)

PK-RP40~50KAの場合

基板収納ケース

リード線

(図15)

PK-RP80~112KAの場合

基板収納ケース

リード線

7-4 配線確認

(図17)

● 配線工事が終了したら、カバーを外れていないことを確認した後、室内ユニットの電気品箱のカバー、バネリをまとめておりに取付けてください。

8. 試運転

★ ドレンアップメカの据付け完了後、試運転により排水が確実に行われていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。

- (1) 注水

室内ユニットのドレン(パン)に約800cc注水してください。(※室内ユニット据付工事説明書のドレン配管(排水)の確認の項目を参照してください)

(※注入する水量が多過ぎるとドレンオーバーフロー保護動作による異常停止により排水できない場合があります)
- (2) 試運転

室内ユニット据付工事説明書の試運転の項目に従って、冷房運転を行い排水、並びに漏水のないことを確認してください。

※暖房シーズン中にドレンアップメカを据付けた場合、ドレン抜きを行ってください。

ドレン抜きは、本体側面ドレンプラグを取外せば行えます。このときドレンの受皿をご用意ください。

ドレン抜きが完了したらドレンプラグをもととおりにはめ込んでください。

(3) 確認後、化粧カバーをもととおりに取付けてください。

※4-1で付けたマーキング位置と室内ユニットの左側部が合致しているか確認してください。

(化粧カバーが取付かない、もしくは化粧カバーと室内ユニットとの間に隙間が生じます)